

# 貝類

## 1. 選定・評価方法の概要

1998年版では小笠原諸島の貝類のみが対象とされ、伊豆諸島は対象外であった。伊豆諸島と小笠原諸島に分布する貝類として約2,000種弱が報告されており(西村, 1999; 湊, 1988など)、微小な種の確認やその再検討によりまだ種数は増加すると考えられるが、特に陸産種では貝類相はほぼ把握されているといえる。貝類では、今回の対象とした生息場所の範囲は、ほぼ環境省(平成19年8月3日報道発表資料)に準拠して、基本は陸域・陸水域である。ただ、陸水域には幼生が海域に出た後、淡水域に戻ってくる両側回遊<sup>\*1</sup>する種も含まれている。わずかではあるが小笠原諸島では、主に内湾域の潮間帯<sup>\*2</sup>に生息する種も対象とした。これらの生息域に見られる種は、伊豆諸島で87種、小笠原諸島で130種(いずれも亜種を個別にカウントした。以下同じ。)となり、そのうち伊豆諸島では47種を、小笠原諸島では97種を検討対象種とした。研究中で種小名の確定していない種(未記載種: リスト中にはsp. で表記した)も、認識された種であるので対象に含めた。今回の対象年代は、明治期以降とした。

伊豆諸島の分布記録は比較的多いが、生息密度変化を具体的に示すデータはほぼ皆無であった。小笠原諸島では、1990年代以降の密度変化を示すデータは存在するものの、一部の島しょと分類群に限定されており、対象種全体を同じ精度で評価・表記することは不可能であった。そのため、評価は定性的要件に基づき、CR(絶滅危惧ⅠA類)とEN(絶滅危惧限ⅠB類)とを区別しなかった。

なお、貝類の分類体系は、高次分類群の取り扱いが研究者等により異なっており、目名は日本動物学会(1988)に準拠した。

## 2. 選定・評価結果の概要

### <伊豆諸島>

本諸島の貝類は1998年版では対象となっていなかったが、今回、検討の結果、39種が掲載された。環境省版レッドリストの2006年改訂版で、DD(情報不足)として多数の微小なベッコウマイマイ科の種が新規掲載され、今回これに準拠し、この科が多い傾向となった。ランクとしては、CR+EN(絶滅危惧Ⅰ類)5種、VU(絶滅危惧Ⅱ類)8種、NT(準絶滅危惧)13種、DD(情報不足)7種、留意種6種となり、NTが多いものの、比較的各ランクの割合は近似していた。CR+ENには、八丈島に生息する固有種を含む陸産貝類が多く含まれることになった。八丈島では、近年の南九州や奄美諸島等からの外来生物が多く記録されている。一部には、このような外来生物による攪乱が陸産貝類減少の要因とも考えられるが、外来生物が記録される前から、屋敷林等に生息していたキセルガイ類等の激減が観察されており、各種の薬剤散布が一因ではないかと想定されている。このように、島内の広範囲な環境で一部の種の個体数減少が確認されている。八丈島以外のいくつかの島しょでも、密度低下のレベルは低いものの、陸産貝類個体数の減少が認められている。現在では無人島となっている八丈小島には、複数の掲載種が生存している。この島では、林床の改変により陸産貝類の生存を脅かすノヤギ(野生化したヤギ)の排除事業が成功し、掲載種の継続的な生存可能性が高くなっている。鳥島からは分布北限となる数種が知られており、小面積の島の環境は激変しやすいと考え、これらの種を留意種として掲載した。

伊豆諸島の各島では自然度の高い地域が自然公園等に指定され、法的な規制がかかっている。これらの地域で移動能力の低い陸産貝類は生存できている。社寺林や人為的攪乱の極めて少ない海岸崖地等からも掲載種が確認されている。

伊豆諸島は火山島であり、河川・干潟の発達が悪く、これらの環境に生息する種はわずかにしか記録されていない。両側回遊する種のうち、定着と想定される種を掲載した。

### ＜小笠原諸島＞

本諸島の貝類では陸産種を中心として 1998 年版で 78 種が掲載され、今回 88 種を掲載した。種数の相違は、前回より対象年代を新しくしたため、明治期以前に絶滅したことが確実な 3 種を除き、環境省版レッドリストの 2006 年版以降に記載された種や未記載ながら極めて絶滅の可能性の高い弟島のカタマイマイ属の一種を含め、さらに両側回遊する種を対象としたためである。ランクとしては、EX(絶滅)18種、CR+EN(絶滅危惧Ⅰ類)47種、VU(絶滅危惧Ⅱ類)12種、NT(準絶滅危惧)3種、DD(情報不足)6種、留意種2種となり、掲載種の約 1/4 が絶滅種であり、絶滅危惧Ⅰ・Ⅱ類も約 6 割にも達している。これは、極めて固有性の高い本諸島の陸産貝類は明治期に詳細に調査され、諸島内で適応放散したいくつもの分類群が記載されており、小面積の各島が太平洋戦争以前に森林伐採を中心とした極めて強い人為的変革を受けていたことによる結果である。また聳島列島を中心にノヤギによる植生破壊も陸産貝類の激減をもたらしている要因の一つである。このようなノヤギや同じく陸産貝類の生存に影響する弟島のブタの排除事業でも成果が上がっており、絶滅回避に貢献している。前回のリストで絶滅とされた数種が、近年母島のこれまで未調査であった小面積の地域から再発見されたが、このように散在してわずかに残存している良好な地域に掲載種の大部分が分布している。特に人為的改変の少ない兄島には多くの掲載種が比較的高密度で生息している。本諸島では、外来種のニューギニアヤリガタリクウズムシによる固有陸産貝類の捕食による激減が現在も進行中である。前述の野生化した哺乳類の駆除事業等と共に、リクウズムシを含め外来生物の諸島への持ち込み・島間の分散阻止等、様々な方面から多大な努力が払われている。

汽水産・海産種では、父島大村湾のような遮蔽された海域に生息する固有種のオガサワラスガイで減少が著しく、同湾奥部の小面積の干潟からもいくつかの掲載種が知られている。両側回遊する種は、今回の検討の結果、定着している、あるいは幼生加入が継続的に行われていると判断した種は少なく、ほとんど掲載しなかった。ただ、父島八瀬川の河口域等では、ブタハマチグサ等の掲載種が生息する特異な環境である。

\*<sup>1</sup> 主に淡水域で生活しており、淡水で生まれてすぐに海に下り、再び淡水域にもどるもの

\*<sup>2</sup> 海岸において潮が満ち引きする範囲のこと

### 【引用文献】

日本動物学会(編), 1988. 学術用語集(動物学編)増訂版. 丸善. 1122 pp.

湊宏(編), 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類目録刊行会. 294 pp.

西村和久, 1999. 伊豆・小笠原諸島海域における貝類分布. 東京水試調査研究報告, (211): 1-124.

(黒住耐二)

## イシマキガイ

*Clithon retropictus*

オキナエビス目  
アマオブネ科

伊豆諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

殻は、殻高 10mm、殻径 15mm 程度の球形。螺層は極めて小さく、通常は侵食され、体層のみとなる。殻口は半月状で、内唇に弱い歯を持つ。殻表の三角斑は、底辺部が黒褐色に彩色される。フタは平板で、石灰質。岩などの表面の藻類を摂食する。円形の卵嚢を岩などに産み、両側回遊を行う。河口域に着底した後、河川を遡上し、成長する。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州、小笠原諸島、四国、九州、南西諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

河口汽水域から淡水域の岩礫底に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島では、式根島から記録があるのみで、本種の着底を妨げるような河口域の改変、河川流量減少による河口閉塞、河川の水質汚染などにより、生息に不適な状態になっている可能性が高い。これらを回避することが望ましい。

### 【関連文献】

五十嵐正治・古館省典, 1952; 奥谷喬司, 2000.

(執筆: 黒住耐二)



提供の写真を編集レイアウトしました

## トシヤマトガイ

*Japonia toshimana*

ニナ目  
ヤマタニシ科

伊豆諸島

NT

環境省

### 【形態・生態】

殻は、殻高 5mm、殻径 5mm 程度のやや高い円錐形、赤褐色。螺層は段差を持つ。体層中央部に、2列の毛状附属物を持ち、長く、密に存在する。殻表の成長肋・螺肋に沿った殻皮は明瞭。臍孔は開き、深い。殻口は円形で、わずかに厚くなるが、反転しない。円形で、薄い角質・多旋形・淡黄褐色のフタを持つ。地上性種で、礫地を主とした落葉下に生息する。サドヤマトガイと同種という見解もある。

### 【分布の概要】

伊豆諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

自然度の高い森林の林床に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

元々、島によって生息密度が異なるが、開発などにより樹木の伐採や改変が行われ、生息域の減少および環境悪化が進行している。樹木環境を改変する場合には、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

波部忠重, 1977; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



## ムシオイガイ

*Chamalycaeus nipponensis*

ニナ目  
ムシオイガイ科

伊豆諸島

NT

環境省

### 【形態・生態】

殻は、殻高 2.5mm、殻径 4.5mm 程度の低い円錐型で、淡赤褐色。縫合はくびれ、螺層はやや膨らむ。殻表には、やや密で、明瞭な縦肋がある。成貝になると、殻口縁から 1/5 層のところに、縫合に沿って 1/6 層程度のやや長い虫様体を持つ。この部分に弱い窪みを持ち、殻口までの部分の肋は弱い。臍孔は開き、深い。殻口は円形で、体層付着部で不明瞭とならず、反転し、通常 2 重縁となる。円形で、薄い角質・多旋形の薄層が重なったフタを持つ。フタの表面には、時に輪状に土壌を付着させる。地上性種で、礫地を主とした落葉下に生息する。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州(関東)

### 【伊豆諸島における生息環境】

自然度の高い森林の林床に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

元々、島によって生息密度が異なるが、開発などにより樹木の伐採や改変が行われ、生息域の減少および環境悪化が進行している。樹木環境を改変する場合には、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

波部忠重, 1977; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



提供の写真を編集レイアウトしました

## キュウシュウクビキレ (ヤマトクビキレガイ) ニナ目 クビキレガイ科

*Truncatella pfeifferi*

伊豆諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

殻は、殻高 5.5mm、殻径 2.2mm 程度の細長い円筒形、厚質、赤褐色。成貝では初期層が欠落するので螺層は少なく、側面はわずかに膨らみ、明瞭で密な縦肋を持つが、時に弱いこともある。殻口は反転・肥厚し、内部に歯を持たない。臍孔はない。フタは薄く、少旋形で、一部に石灰質の沈着があるが、革質。通常、やや遮蔽された海岸の潮上帯の打上げ物や転石下に生息する。直達発生を行い、変態しない。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、北海道(南部)、本州、四国、九州、種子島

### 【伊豆諸島における生息環境】

小さな湾の岩礁海岸の潮上帯に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

記録はあったものの、詳細な生息地は知られていなかったが、最近、大島の1ヶ所で生息が確認された。他にも生息地は存在すると考えられるが、いずれも小面積である可能性が高く、護岸工事などを行う場合には、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

東正雄, 1995; 奥谷喬司, 2000.

(執筆: 黒住耐二)



© 京都大学総合博物館  
提供の写真を編集レイアウトしました

## ハチジョウケシガイ オカミミガイ目 ケシガイ科

*Carychium hachijoense*

オカミミガイ目  
ケシガイ科

伊豆諸島

NT

環境省

### 【形態・生態】

殻は、殻高 1.5mm、殻径 0.8mm 程度の高い塔型、白色半透明。体層は幅広く、また大きく、殻高の 2/3 を占める。縫合はやや浅い。殻内の軸唇部の螺状板は、ねじれず、斜位で、中程度に発達する。殻表はほぼ平滑で、光沢がある。外唇は反転、肥厚し、殻口内に3歯を持ち、軸唇のものは弱い。明瞭で、外唇側の歯はやや弱い。地上性で、落葉下に生息する。

### 【分布の概要】

伊豆諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

主に林縁部に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

1980年代までは、八丈島で多くの個体が得られていたが、近年では激減しており、林縁部における人為的影響(薬剤散布が想定される)が減少の要因と考えられる。残存地域で改変を行う場合には、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

波部忠重, 1977; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



© 京都大学総合博物館  
提供の写真を編集レイアウトしました

## イオウジマノミガイ マイマイ目 ノミガイ科

*Elasmias kitaiwojimanum*

マイマイ目  
ノミガイ科

伊豆諸島

CR-EN

環境省

VU

### 【形態・生態】

殻は、殻高 2.7mm、殻径 2.0mm 程度の球形、薄質、半透明淡黄白色。体層が大きく、殻表はほぼ平滑で光沢を持つ。軸唇は垂直で、弱い歯を持つ。臍孔はない。樹上性。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、小笠原諸島、南西諸島(大東諸島)

### 【伊豆諸島における生息環境】

主に湿潤な林に生息し、樹上の葉裏で見つかることが多い。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

1980年代までは、八丈島で得られた個体も確認されているが、近年では激減しており、林縁部における人為的影響(薬剤散布が想定される)が減少の要因と考えられる。残存地域で改変を行う場合には、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

黒田徳米, 1963; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



© 京都大学総合博物館  
提供の写真を編集レイアウトしました

## トウガタノミガイ

*Lamellidea biplicata*

マイマイ目  
ノミガイ科

伊豆諸島

VU

環境省

VU

### 【形態・生態】

殻は、殻高 3.5mm、殻径 1.7mm 程度の高い円錐形、薄質、半透明淡黄褐色。体層は殻高の 1/2 程度で、側面へ張り出さない。殻表に光沢を持つ。殻口は下方へ伸びない。臍孔はなく、軸唇はほぼ垂直で、ねじれはやや強い。樹上性。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、小笠原諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

自然度の高い森林に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

1980 年代までは、八丈島で得られた個体も確認されているが、他の島しょを含め近年では報告されていない。ただ、微小なため発見率が低いものと思われ、今後、新たな生息地が確認される可能性は十分ある。林縁部における人為的影響（薬剤散布が想定される）が減少の要因と考えられる。残存地域で改変を行う場合には、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

黒田徳米, 1963; 東正雄, 1995.

(執筆者: 黒住耐二)



© 京都大学総合博物館

提供の写真を編集レイアウトしました

## ナカダノミガイ

*Lamellidea nakadai*

マイマイ目  
ノミガイ科

伊豆諸島

\*

環境省

DD

### 【形態・生態】

殻は、殻高 3.5mm、殻径 1.8mm 程度の高い円錐形、薄質で、半透明淡黄褐色。体層は殻高の 1/2 程度で、側面へ弱く張り出す。殻表に光沢を持つ。殻口は下方へ伸びる。臍孔はなく、軸唇はほぼ垂直で、ねじれは弱い。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、小笠原諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

風衝性の灌木林に生息するものと思われる。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

鳥島からのみ報告されており、この島での人為的影響は想定しづらい。ただし、海鳥の増加に伴う植生の変化や台風などにより生息環境が変化する可能性がある。島の環境変化をモニタリングすることが望まれる。

### 【関連文献】

波部忠重, 1985; 湊宏, 1988.

(執筆者: 黒住耐二)



© 京都大学総合博物館

提供の写真を編集レイアウトしました

## ノミガイ

*Tornatellides boeningi*

マイマイ目  
ノミガイ科

伊豆諸島

NT

環境省

VU

### 【形態・生態】

殻は、殻高 3.0mm、殻径 1.7mm 程度の高い円錐形で細長く、薄質、栗色。体層は殻長の 1/2 以上であり膨らまない。殻表は平滑で弱い光沢があり、内唇に 1 歯を持つ。軸唇は垂直で反転し、広い。臍孔はやや広く開く。灌木などの樹幹や葉の裏で見られる樹上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

主に海岸林に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島南部の島しょから報告されているが、確実な記録は少ない。これは、殻が微小なため発見率が低いことに起因すると思われる。海岸林の改変を行う場合には、薬剤散布などを含め、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

波部忠重, 1977; 東正雄, 1995.

(執筆者: 黒住耐二)



© 京都大学総合博物館

提供の写真を編集レイアウトしました

## トライオンノミガイ

*Tornatellides tryoni*

マイマイ目  
ノミガイ科

伊豆諸島

\*

環境省

NT

### 【形態・生態】

殻は、殻高 3.0mm、殻径 1.9mm 程度の円錐形、薄質、淡黄褐色。体層は殻長の 1/2 以上で側面へ膨らみ、特に成貝では下膨れとなる。殻表は平滑で弱い光沢があり、内唇に 1 歯を持つ。軸唇は垂直で反転し、広い。臍孔はやや広く開く。灌木などの樹幹や葉の裏で見られる樹上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、小笠原諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

風衝性の灌木林に生息するものと思われる。

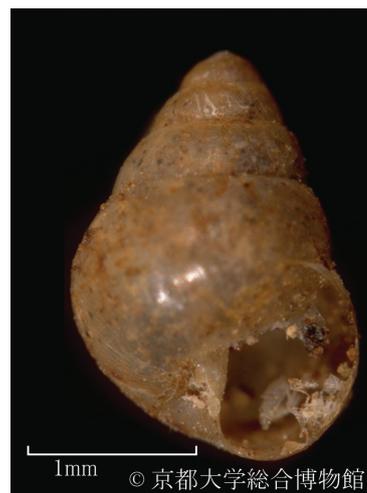
### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

鳥島からのみ報告されており、この島での人為的影響は想定しづらい。ただし、海鳥の増加に伴う植生の変化や台風などにより生息環境が変化する可能性がある。島の環境変化をモニタリングすることが望まれる。

### 【関連文献】

波部忠重, 1985; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



© 京都大学総合博物館

提供の写真を編集レイアウトしました

## ヤマボタル

※備考 (p. 579)

*Cionella lubrica*

マイマイ目  
ヤマボタルガイ科

伊豆諸島

VU

環境省

LP

### 【形態・生態】

殻は、殻高 6.0mm、殻径 2.7mm 程度の紡錘形、褐色。螺層は高く、わずかに膨らむ。体層は大きく、殻高の 1/2 を越える。殻表は平滑で、強い光沢がある。殻口は単純で歯はない。外唇はわずかに肥厚するが、反転しない。軸唇は垂直に近い。臍孔はない。地上性種で、落葉下などに生息する。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州 (中部以北)

### 【伊豆諸島における生息環境】

林縁から林内の湿潤な環境に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

八丈島や青ヶ島では、1980 年以前は各地で比較的個体数が多かったが、近年では減少が著しい。諸島内での移入も想定されている。樹林環境の改変などが、減少の要因と考えられる。樹林への人為的影響を減らすことが望ましい。

### 【関連文献】

小山千万樹, 1946; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



1mm

## スナガイ

※備考 (p. 579)

*Gastrocopta armigerella armigerella*

マイマイ目  
キバサナギガイ科

伊豆諸島

NT

環境省

NT

### 【形態・生態】

殻は、殻高 2.3mm、殻径 1.1mm 程度の高い円錐形、白色半透明。螺層は殻頂に向かって緩やかに細まり、体層と次体層の径では体層の方が大きい。縫合はやや深い。殻表はほぼ平滑。外唇は反転・肥厚し、殻口内に 7 つの歯状突起を有し、内唇には強い 2 歯があり、下位壁唇板は少し小さいが明瞭。地上性種で、落葉下などに生息する。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、北海道 (西南部の島しょ)、本州、四国、九州、南西諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

海浜部の海岸植生から開けた林縁部まで生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島からの本種の記録はかなり少なく、生息状況の変化は不明である。ただし、海岸林の改変を行う場合には、薬剤散布などを含め、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

大山桂, 1955; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



1mm

© 京都大学総合博物館

提供の写真を編集レイアウトしました

## ハチジョウキバサナギガイ

*Vertigo hachijoensis*

マイマイ目  
キバサナギガイ科

伊豆諸島 CR+EN

環境省 CR+EN

### 【形態・生態】

殻は、殻高 1.8mm、殻径 1.2mm 程度の卵形、厚質、褐色。体層と次体層の径では体層の方がわずかに大きい。縫合はやや深い。殻表には微細で明瞭な成長線がある。外唇は反転・肥厚し、外側に厚質部が存在し、中央部は窪む。殻口内に 4 つの歯状突起を有し、内唇には強い 1 歯があり、外唇内部の 2 歯はほぼ同長。地上性種で、落葉下などに生息する。

### 【分布の概要】

伊豆諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

詳細な記録はないが、採集地の環境から主に林縁部に生息するものと思われる。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

1980 年以前の標本は確認されているが、周辺島しょを含め、近年の報告はない。ただし、殻が微小なため発見率が低いものと思われ、今後、新たな生息地が確認される可能性がある。新たに生息地が発見された場合には、人為的影響が及ばないように配慮することが望ましい。

### 【関連文献】

板垣博, 1962; 東正雄, 1995.

(執筆者: 黒住耐二)



## ハチジョウキセルモドキ

*Yakuena hachijoensis*

マイマイ目  
キセルガイモドキ科

伊豆諸島 CR+EN

環境省 CR+EN

### 【形態・生態】

殻は、殻高 14.0mm、殻径 5.6mm 程度の塔型、薄質、淡黄褐色。螺塔は高く、殻高の 1/2 以上、螺層側面はほとんど膨らまない。殻表に、弱い螺状脈を持つ。臍孔は閉じる。殻口内は単純で、歯を持たない。殻口は反転するが、肥厚しない。広葉樹などに登って生息する樹上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

主に林縁部のアジサイなどの葉の裏で活動個体が確認されている。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

1980 年以前の記録・標本はあるが、周辺島しょを含め、近年の報告はない。減少要因は薬剤散布と推測されている。最後に生息が確認された八丈小島でも、1998 年の調査では確認されていない。この島ではヤギによる植生破壊が懸念されたが、ヤギの排除に成功している。この島や八丈島の人為的な影響のほとんどない地域で改変を行う場合には、本種に配慮することが望ましい。

### 【関連文献】

黒住耐二, 1995; 湊宏・川名美佐男, 1999.

(執筆者: 黒住耐二)



## ゾウゲツヤノミギセル

*Hemizapyx purissima*

マイマイ目  
キセルガイ科

伊豆諸島 CR+EN

環境省 CR+EN

### 【形態・生態】

殻は、殻高 11.0mm、殻径 2.4mm 程度の細長い塔型、淡黄白色の単色で、強い光沢を持つ。殻頂部は急激に細くならず、螺層はほとんど膨れない。殻口は反転・肥厚し、内部の上板・下板・下軸板とも弱い認められる。体層内の腔壁は、長い主壁、極めて短い上・下腔壁、不明瞭な月状壁からなる。臍孔はない。倒木下などに生息する地上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

自然度の高い森林に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

少数の島しょから確認されているものの、その地点数は少なく、範囲も狭い。また、三宅島では、火山活動の影響も懸念されている。生息地の樹林環境を保全することが望ましい。

### 【関連文献】

東正雄, 1995; 湊宏, 2007.

(執筆者: 黒住耐二)



© 京都大学総合博物館

提供の写真を編集レイアウトしました

## ハチジョウノミギセル

*Metazaptyx hachijoensis*

マイマイ目  
キセルガイ科

伊豆諸島

NT

環境省

NT

### 【形態・生態】

殻は、殻高 11mm、殻径 3mm 程度の細長い塔型、やや薄質、濃褐色の単色で、光沢を持つ。殻頂部は比較的細く、螺層は少し膨れる。体層背面は膨らむ。殻口内の上板は弱い明瞭で、下板は奥に存在し、下軸板も弱い認められる。腔壁は、長い主壁、極めて短い上腔壁、下部で緩やかに曲がる月状壁などからなる。落葉下などに生息する地上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島（移入個体群は兵庫にも分布）

### 【伊豆諸島における生息環境】

標高に関係なく、幅広い地域に分布し、主に林縁部に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

1990 年ごろから、八丈島での激減が報告されている。ただし、無人島の八丈小島では、現在も高密度に生息していることが知られている。農薬散布が、激減の主要因と想定されている。しかし、いくつかの生息地がまだ存在するので、それらの生息地では環境の改変を極力避けることが望ましい。

### 【関連文献】

東正雄, 1995; 湊宏, 2007.

(執筆: 黒住耐二)



5mm © 京都大学総合博物館

提供の写真を編集レイアウトしました

## ホンダキセル

*Phaedusa hondana*

マイマイ目  
キセルガイ科

伊豆諸島

\*

環境省

### 【形態・生態】

殻は、殻高 20.0mm、殻径 4.3mm 程度の細長い塔型、厚質、黄褐色から栗色の単色で、弱い光沢を持つ。殻頂部は急激に細くならず、螺層はほとんど膨れない。殻表の成長肋は弱い。殻口は反転し、強く肥厚し、縁は白色。内部の上板・下板・下軸板とも強く、明瞭で、特に下板はとがる。腔壁は、長い主壁、極めて短い上・下腔壁からなる。時に樹幹にも登るが、地上性種。ヒクギセルと同種とされることもある。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州（静岡東部、関東南部）

### 【伊豆諸島における生息環境】

伊豆諸島北部島しょの主に低標高の地域で、林縁部を中心に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

比較的高密度で生息する種であり、準絶滅危惧種に該当するほどではないが減少傾向が認められ、樹林環境の改変には注意が必要と考えられる。

### 【関連文献】

湊宏, 1994; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



5mm

## トライオンキセル

*Phaedusa tryoni*

マイマイ目  
キセルガイ科

伊豆諸島

VU

環境省

VU

### 【形態・生態】

殻は、殻高 13.0mm、殻径 3.6mm 程度の細長い塔型、やや太く、やや厚質、また、濃赤褐色の単色で、やや強い光沢を持つ。殻頂部は急に細くなり、螺層はほとんど膨れない。殻表の成長肋は弱い。殻口は反転し、肥厚し、縁は淡褐色に彩色されることが多い。内部の上板・下板・下軸板とも明らかだが、下板は奥に位置する。腔壁は、長い主壁、短い上・下腔壁からなる。卵胎生。落葉下などに生息する地上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

比較的湿度の高い林縁や林内に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

1990 年ごろから、八丈島での激減が報告されている。現在は無人島の八丈小島や八丈島の一部で、生息が確認されている。農薬散布が、減少の主要因と推測されている。三宅島などでは、まだ生存地域が存在するので、そのような地域では改変を極力避けることが望ましい。

### 【関連文献】

東正雄, 1995; 湊宏, 2007.

(執筆: 黒住耐二)



5mm

## ハコネギセル

*Pinguiphaedusa hakonensis*

マイマイ目  
キセルガイ科

伊豆諸島



環境省

### 【形態・生態】

殻は、殻高 30.0mm、殻径 6.5mm 程度の細長い塔型、厚質、濃紫褐色。殻頂部は急に細くならず、螺層はほとんど膨れない。縫合下は黄白色になり、弱い光沢を持つ。殻表の成長肋は弱い。殻口は反転し、強く肥厚し、白色。内部の上板・下板は明らかで、下板はとがらない。下軸板は殻口縁に現れない。腔壁は、長い主壁と「入」型の壁からなる。卵生。倒木下などに生息する地上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州（静岡東部、関東南部）

### 【伊豆諸島における生息環境】

標高に関係なく、幅広い地域に分布し、林縁部から林内に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

比較的高密度で生息する種であり、準絶滅危惧種に該当するほどではないが減少傾向が認められ、樹林環境の改変には注意が必要と考えられる。

### 【関連文献】

波部忠重, 1977; 東正雄, 1995.

(執筆者: 黒住耐二)



© 京都大学総合博物館

提供の写真を編集レイアウトしました

## ナカダコギセル

*Proreinia nakadai*

マイマイ目  
キセルガイ科

伊豆諸島



環境省



### 【形態・生態】

殻は、殻高 7.5mm、殻径 2.0mm 程度の砲弾型、薄質、濃赤褐色、光沢を持つ。巻数は少なく、螺層はほとんど膨れない。殻表の成長肋は弱く、平滑に見える。殻口は体層と付着する部分が滑層となり、斜めに位置し、反転・肥厚する。内部の上板・下板は明らかだが弱く、下軸板は殻口縁に現れない。腔壁は、長い主壁のみである。卵胎生。大木の樹皮下などに生息する樹上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

大木が生育する湿潤な環境に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

八丈島と青ヶ島のみから知られており、前者でも報告されている地点は2~3ヶ所である。特に、よく知られていた社寺林の群ではほとんど確認されなくなっている。生息地周辺の伐採でも、林内の湿度が変化し、一挙に激減する可能性が高いため、残存地域では生息する大木などのみではなく、その周辺環境の改変を避けることが望ましい。また、採集圧をかけないことも重要である。

### 【関連文献】

東正雄, 1995; 湊宏, 2007.

(執筆者: 黒住耐二)



## ヒロクチコギセル

*Reinia variegata*

マイマイ目  
キセルガイ科

伊豆諸島



環境省



### 【形態・生態】

殻は、殻高 9.0mm、殻径 2.8mm 程度の砲弾型、薄質、茶褐色と半透明黄白色の弱い縦縞の色彩。巻数は少なく、螺層はほとんど膨れない。殻表は平滑に見える。殻口は体層と付着する部分が滑層となり、反転・肥厚する。内部の上板・下板・下軸板はほとんど殻口縁に現れない。全ての腔壁を欠く。卵胎生。様々な樹種の樹幹に生息する樹上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島（大隅諸島）

### 【伊豆諸島における生息環境】

海岸部の森林に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島の多くの島から記録はあるが、近年の調査では、大島や八丈島で、個体数の減少が認められている。薬剤散布などが減少の要因と考えられ、薬剤の使用に関しては注意することが望ましい。

### 【関連文献】

東正雄, 1995; 湊宏, 2007.

(執筆者: 黒住耐二)



© 京都大学総合博物館

提供の写真を編集レイアウトしました

## ハコネヒメベッコウ

*Japanochlamys hakonensis*

マイマイ目  
ベッコウマイマイ科

伊豆諸島

VU

環境省

DD

### 【形態・生態】

殻は、殻高 3.4mm、殻径 6.1mm 程度のソロバン玉形、やや薄質、半透明褐色。螺層はやや高く、螺層数は多く、側面はほとんど膨らまない。体層周縁は弱く角張るが、竜骨状とはならない。底面はやや膨れる。殻表はほぼ平滑で、光沢を持つ。外唇は反転しない。軸唇は斜位。臍孔は狭いが開く。落葉下などに生息する地上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東、中部東部）

### 【伊豆諸島における生息環境】

自然度の高い森林の林床に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島では、大島と三宅島から報告されているが、報告地点などは極めて少ない。樹林環境を改変する場合には、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

波部忠重, 1977; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



## シチトウベッコウ

*Nipponochlamys izushichitojimana*

マイマイ目  
ベッコウマイマイ科

伊豆諸島

VU

環境省

DD

### 【形態・生態】

殻は、殻高 3.6mm、殻径 6.1mm 程度の平巻形、やや薄質、半透明淡褐色。螺層はやや突出する。体層は大きく、殻高の 4/5 を占め、周縁に弱い角を持つが、殻口部では消失する。殻表上面に弱く、不規則なシワがあり、体層底面はほぼ平滑、全体に光沢がある。外唇は反転しない。軸唇は緩やかにカーブする。臍孔は小さいが開く。落葉下などに生息する地上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

自然度の高い森林の林床に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

戦前には、式根島で比較的容易に確認されていたようであるが、戦後の調査による記録は極めて少ない。樹林環境の改変が減少の主要因であると考えられ、樹林環境を改変する場合には、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

中鉢正美・堀越増興, 1942; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



所蔵: 千葉県立中央博物館

## ハチジョウキビ

*Parakariella hachijoensis*

マイマイ目  
ベッコウマイマイ科

伊豆諸島

DD

環境省

DD

### 【形態・生態】

殻は、殻高 3.0mm、殻径 3.3mm 程度のやや高い円錐形、やや薄質、淡褐色。螺層は多く、側面はわずかに膨らむ。体層周縁の角は弱いが認められ、突出することはない。殻表は弱い成長線を持つが、ほぼ平滑に見える。外唇は反転しない。軸唇は垂直に近い。臍孔は閉じる。八丈小島では、ツバキの樹幹に生息しているのが確認されている。

### 【分布の概要】

伊豆諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

やや自然度の高い森林の林床に生息するものと推測される。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種は、三宅島・八丈島・八丈小島・青ヶ島の4島からのみ報告されているが、近年、八丈小島を除く3島からの報告はほとんどない。ただ、微小なことと、同定が難しいことも影響している可能性がある。八丈島では薬剤散布、他の島では樹林環境の改変が減少の要因と考えられる。これらの要因を回避することが望まれる。

### 【関連文献】

小山千万樹, 1974; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



© 京都大学総合博物館

提供の写真を編集レイアウトしました

## ニジマシタラガイ ※備考 (p. 579)

*Parasitala nijimana*

マイマイ目  
ベッコウマイマイ科

伊豆諸島



環境省

### 【形態・生態】

殻は、殻高 3.0mm、殻径 3.3mm 程度の垂菱形、薄質、淡黄白色。螺層はやや低く、側面はほとんど膨らまない。体層は大きく、殻高の 2/3 を占め、周縁に明瞭な角を有する。殻表には弱く不明瞭な成長線と微細な裸溝を持つが、ほぼ平滑に見え、光沢がある。外唇は反転しない。軸唇は垂直に近い。臍孔は小さいが開く。主に広葉樹の葉の裏などで見つかる樹上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

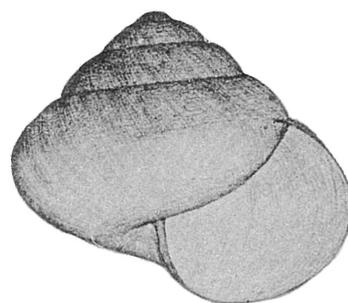
やや自然度の高い森林の林縁に生息するものと推測される。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

個体数は少なく、そして、同属の別種が移入されている可能性も高い。主に林縁の樹上性種であり、薬剤散布の影響を受けやすいと考えられる。今後、詳細な分類学的検討などとともに、外来種の分布状況と薬剤の影響に関する調査が必要と考えられる。

### 【関連文献】

前田和俊ら, 1987; 湊宏, 2006.



出典: 平瀬一郎, 1908. 日本陸産貝類圖説 (十五). 介類雑誌, 2(9): pl. 20.

(執筆: 黒住耐二)

## コシダカシタラガイ

*Sitalina circumcincta*

マイマイ目  
ベッコウマイマイ科

伊豆諸島



環境省

### 【形態・生態】

殻は、殻高 2.2mm、殻径 1.7mm 程度の高い円錐形、薄質、褐色。螺層は多く、側面はやや膨らみ、縫合は深い。体層周縁は丸く、角を持たない。体層底面は平たい。臍孔はわずかに開く。殻表には、明瞭で深い 5 本程度の螺溝を持つ。外唇は反転しない。軸唇は垂直的。落葉下などに生息する地上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

やや自然度の高い森林に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島では、少数の島から記録や確認はあるが、極めてわずかな例だけである。殻が微小なため発見率が低いものと思われるが、樹林環境の変化も未発見の要因として大きいと考えられる。樹林環境を改変する場合には、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

波部忠重, 1977; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



© 京都大学総合博物館

提供の写真を編集レイアウトしました

## ヒラシタラガイ ※備考 (p. 579)

*Sitalina latissima*

マイマイ目  
ベッコウマイマイ科

伊豆諸島



環境省

LP

### 【形態・生態】

殻は、殻高 1.6mm、殻径 2.4mm 程度の低い円錐形、薄質、淡褐色。螺層は多く、側面はやや膨らみ、縫合は深い。体層周縁は強く角張るが、突出しない。体層底面は平たい。臍孔は極めて狭く開く。殻表には、明瞭な 2 本程度の螺状の殻皮を持つ。外唇は反転しない。軸唇は緩やかにカーブする。落葉下などに生息する地上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州 (関東以西)、四国、九州、南西諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

やや自然度の高い森林の林縁や海岸林に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島で確認された例はわずかである。殻が微小なため発見率が低いものと思われるが、海岸林を含めた樹林環境の変化も未発見の要因として大きいと考えられる。樹林環境を改変する場合には、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

波部忠重, 1977; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



## ヒラオオキビ

*Trochochlamys labilis persubtilis*

マイマイ目  
ベッコウマイマイ科

伊豆諸島 **NT**

環境省 **NT**

### 【形態・生態】

殻は、殻高 4.8mm、殻径 6.8mm 程度のソロバン玉形、やや薄質、半透明褐色。螺層は低く、側面はほとんど膨らまないが、縫合は弱い段差となる。体層周縁に明瞭な強い角を持ち、突出する。殻表は弱く不明瞭な成長肋を持つが平滑に見え、弱い光沢を持つ。外唇は反転しない。軸唇は少し広がり、緩やかにカーブする。臍孔は狭いが開く。落葉下などに生息する地上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

自然度の高い森林に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島の面積の大きな島しょから記録されているが、近年の報告はほとんどない。樹林環境の改変が減少の主要因として考えられる。樹林環境を改変する場合には、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

波部忠重, 1977; 前田和俊ら, 1987.

(執筆: 黒住耐二)



© 京都大学総合博物館

提供の写真を編集レイアウトしました

## オオカサキビ

*Trochochlamys nesiotica*

マイマイ目  
ベッコウマイマイ科

伊豆諸島 **DD**

環境省

### 【形態・生態】

殻は、殻高 4.5mm、殻径 3.6mm 程度の高い円錐形、やや薄質、半透明淡褐色。螺層は多く、側面は僅かに膨らむ。体層周縁に極めて強く、鋭い角を有し、この角は螺層部にも残る。殻表はほぼ平滑で、まだらで極めて弱い成長肋を持つ。外唇は反転しない。軸唇は垂直に近く、緩やかにカーブする。落葉下などに生息する地上性種と推測される。類似種のカサキビとの分類学的な検討が望まれる。

### 【分布の概要】

伊豆諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

自然度の高い森林に生息すると推測される。

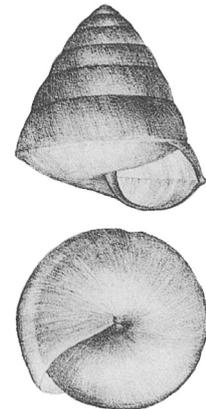
### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島の面積の大きな島しょから記録されているが、近年の報告はほとんどない。樹林環境の改変が減少の主要因として考えられる。樹林環境を改変する場合には、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

波部忠重, 1977; 前田和俊ら, 1987.

(執筆: 黒住耐二)



出典: 平瀬與一郎, 1908. 日本陸産貝類圖説(十一). 介類雑誌, 2(5): pl. 16.

## タカキビ ※備考 (p. 579)

*Trochochlamys praealta*

マイマイ目  
ベッコウマイマイ科

伊豆諸島 **NT**

環境省 **NT**

### 【形態・生態】

殻は、殻高 4.5mm、殻径 2.1mm 程度の細長い円錐形、やや薄質、半透明褐色。螺層は極めて多く、側面はわずかに膨らむ。体層周縁の角は明瞭だが、弱く突出することはない。殻表はほぼ平滑。外唇は反転しない。軸唇はほぼ垂直。活動時には主に広葉樹の葉の裏などで見つかる樹上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州(中部以西)、四国、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

やや自然度の高い森林の林縁に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島のいくつかの島しょから記録されている。少ないながら確認記録も存在しているが、個体数は少ないようである。樹林環境の改変による乾燥化も減少の要因として考えられる。樹林環境を改変する場合には、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

東正雄, 1995; Ueshima, R., 1995.

(執筆: 黒住耐二)



© 京都大学総合博物館

提供の写真を編集レイアウトしました

## ヒメカサキビ

*Trochochlamys subcrenulata*

マイマイ目  
ベッコウマイマイ科

伊豆諸島 **NT**

環境省 **NT**

### 【形態・生態】

殻は、殻高 2.1mm、殻径 3.0mm 程度のソロバン玉形、やや薄質、半透明褐色。螺層は低く、側面はほとんど膨らまない。体層周縁に明瞭な強い角を持ち、突出する。殻表上面には、密で弱い成長肋と不明瞭な螺溝を持つ。外唇は反転しない。軸唇は緩やかにカーブする。臍孔は狭いが開く。落葉下などに生息する地上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州（中部以西）、四国、九州、南西諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

自然度の高い森林に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島の三宅島から記録され、近年の調査で他の島しょからも発見された。ただ個体数は少ないようである。殻が微小なため発見率が低いものと思われる。また、樹林環境の改変によることが主要因と考えられる。樹林環境を改変する場合には、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

手塚芳治ら, 1975; 環境省自然保護局野生生物課, 2010.

(執筆: 黒住耐二)



© 京都大学総合博物館

提供の写真を編集レイアウトしました

## ハチジョウヒメベッコウ

*Yamatochlamys circumdata*

マイマイ目  
ベッコウマイマイ科

伊豆諸島 **VU**

環境省 **NT**

### 【形態・生態】

殻は、殻高 3.0mm、殻径 4.4mm 程度の略円盤型、やや薄質、半透明褐色。螺層は低いが殻高の 1/3 を占め、螺層数は多く、側面はほとんど膨らまない。体層周縁は丸く、角を持たない。底面は平たい。殻表に粗いが明らかな螺溝を持つ。外唇は反転しない。軸唇は斜位。臍孔は狭いが開く。落葉下などに生息する地上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東以西）、四国、南西諸島（大隅諸島）

### 【伊豆諸島における生息環境】

自然度の高い森林に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島の三宅島と八丈島からのみ記録され、近年の調査でも、三宅島で少数個体の生息が確認されている。しかし、八丈島での報告はなく、樹林内の環境変化により減少した可能性が考えられる。樹林環境を改変する場合には、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

東正雄, 1995; 黒住耐二, 2009.

(執筆: 黒住耐二)



## ナタネガイ

*Punctum amblygonum*

マイマイ目  
ナタネガイ科

伊豆諸島 **DD**

環境省

### 【形態・生態】

殻は、殻高 1.2mm、殻径 2.4mm 程度の円盤型、やや薄質、淡褐色。螺層は低いが、明瞭、螺層数は少なく、側面はほとんど膨らまない。少し角張ることもあるが、尖らない。底面は少しふくらみ、臍孔は広く開く。殻表に粗く、明瞭な板状に発達した殻皮を持つ。外唇は反転しない。軸唇は垂直に近い。落葉下などに生息する地上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国

### 【伊豆諸島における生息環境】

やや自然度の高い林縁や海岸林に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

戦前には、三宅島での記録があるものの、戦後の記録はほとんどない。三宅島の弥生時代の遺跡からは本種が多く得られており、比較的最近に減少した可能性が高い。ただし、殻が微小なため発見されていない可能性もある。樹林の伐採などによる林床の乾燥化が影響を与えている可能性がある。これらの点に注意することが望ましい。

### 【関連文献】

平瀬信太郎・瀧庸, 1951; 波部忠重, 1977.

(執筆: 黒住耐二)



© 京都大学総合博物館

提供の写真を編集レイアウトしました

## ハチジョウナタネガイ

*Punctum infans*

マイマイ目  
ナタネガイ科

伊豆諸島

VU

環境省

### 【形態・生態】

殻は、殻高 1.2mm、殻径 2.0mm 程度の円盤型、やや薄質、褐色。螺層は低く、螺層数は少なく、側面はほとんど膨らまない。体層周縁は明瞭に角張るが、竜骨状とはならない。底面はふくらみ、臍孔は広く開く。殻表に粗く、明瞭な板状に発達した殻皮を持つ。外唇は反転しない。軸唇は垂直に近く、殻口底部はやや角張る。落葉下などに生息する地上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

やや自然度の高い林縁や海岸林に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

1980 年以前には、八丈島の海岸部で多くの個体が確認されていたが、近年は激減しており、青ヶ島でも確認されていない例もある。八丈島では、薬剤散布の影響が大きいものと思われ、生息地が確認された場合は、人為的な影響を避けることが望ましい。

### 【関連文献】

板垣博, 1962; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



## パツラマイマイ

*Discus pauper*

マイマイ目  
パツラマイマイ科

伊豆諸島

NT

環境省

### 【形態・生態】

殻は、殻高 4.0mm、殻径 6.6mm 程度の垂ソロバン玉形、やや薄質、淡褐色。螺層はやや高く、螺層数は多く、側面はほとんど膨らまない。体層周縁は弱い角張りが明瞭に角張り、竜骨状とはならない。底面はふくらみ、臍孔は広く開く。殻表に密で、明瞭な成長肋を持つ。外唇は反転しない。軸唇は緩やかにカーブし、殻口底部は丸い。倒木下などに生息する地上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国

### 【伊豆諸島における生息環境】

湿潤な森林環境に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

主に伊豆諸島南部の島しょで記録されており、1980 年代頃までは確認される頻度が高かったが、近年は減少している。樹林環境の変化による乾燥化が減少の要因として考えられる。樹林環境を改変する場合には、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

波部忠重, 1977; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



© 京都大学総合博物館

提供の写真を編集レイアウトしました

## オオコハクガイ

*Zonitoides yassoensis*

マイマイ目  
コハクガイ科

伊豆諸島

NT

環境省

### 【形態・生態】

殻は、殻高 3.2mm、殻径 6.8mm 程度の円盤型、やや薄質、淡褐色。螺層は低く、螺層数は多く、縫合はやや深い。体層周縁は丸い。底面は平たく、臍孔はやや広く開く。殻表はほぼ平滑で、光沢を持つ。殻口は単純で、反転・肥厚しない。密で、明瞭な成長肋を持つ。外唇は反転しない。軸唇緩やかにカーブし、殻口底部は丸い。落葉下などに生息する地上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州（中部以北）

### 【伊豆諸島における生息環境】

湿潤な森林環境に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

主に伊豆諸島南部の島しょで記録されており、1980 年代頃までは確認される頻度が高かったが、近年は減少している。樹林環境の変化による乾燥化が減少の要因として考えられる。樹林環境を改変する場合には、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

波部忠重, 1977; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



## イズマイマイ

*Euhadara amaliae* subsp.

マイマイ目  
オナジマイマイ科

伊豆諸島 \*

環境省

### 【形態・生態】

殻は、殻高 17mm、殻径 27mm 程度の低い円錐形、やや厚質、黄白色で、紫褐色の色帯を持つ個体もある。螺塔はやや高く、螺層側面は少し膨らむ。体層周縁は丸い。底面はやや膨らむ。臍孔は狭いが開く。殻表は平滑で、弱い光沢を持つ。殻口は反転し、内側は淡紅色となる。これまでハコネマイマイやクチベニマイマイとして知られていたもので、殻形態では両者と区別でき、伊豆諸島内で安定した形態を示す。主に樹幹で発見される樹上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

湿潤な森林環境に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林伐採や薬剤散布の影響によるものと思われる減少が認められる。樹林への人為的な影響を低く抑えることが望まれる。

### 【関連文献】

波部忠重, 1977; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



## ミヤケチャイロマイマイ

*Phaeohelix miyakejimana*

マイマイ目  
オナジマイマイ科

伊豆諸島 NT

環境省 NT

### 【形態・生態】

殻は、殻高 18mm、殻径 25mm 程度の低い円錐形、かなり厚質、黄褐色で、時に淡色の細い色帯を周縁に持つ。螺塔は低く、殻頂は丸い。体層周縁は丸い。底面はやや膨らむ。臍孔は狭いが開く。殻口は反転し、厚くなり、内側は白色。落葉下などに生息する地上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州(静岡)

### 【伊豆諸島における生息環境】

湿潤な森林環境に生息する。

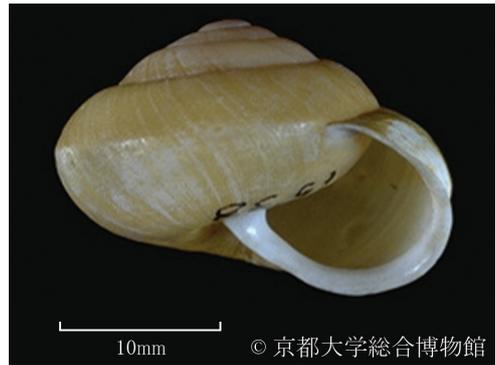
### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島の多くの島から記録があり、中型で発見率が高いと考えられるが、近年の確認個体数は比較的少ない。樹林環境の改変による林床の乾燥化が減少の要因の可能性があり、樹林環境を改変する場合には、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

波部忠重, 1977; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



© 京都大学総合博物館

提供の写真を編集レイアウトしました

## ツバキカドマイマイ

*Trishoplita hachijoensis*

マイマイ目  
オナジマイマイ科

伊豆諸島 NT

環境省 VU

### 【形態・生態】

殻は、殻高 7.5mm、殻径 12.0mm 程度のソロバン玉形、薄質、半透明淡黄白色の単色。螺塔はやや低く、体層周縁は角張り、突出する。底面はやや膨らむ。臍孔は狭いが開く。殻口は反転するが、ほとんど肥厚しない。樹幹や枝先・葉の裏で発見される樹上性種。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、九州(南端)、南西諸島(大隅諸島)、トカラ列島

### 【伊豆諸島における生息環境】

人為的影響が比較的少ない海岸林に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島の多くの島から記録があり、小型ながら、白色の色彩のため発見は比較的容易と考えられるが、近年の確認個体数は比較的少ない。樹林環境の改変による樹林の乾燥化や薬剤散布が減少の要因の可能性があり、樹林環境を改変する場合には、本種に留意することが望ましい。

### 【関連文献】

波部忠重, 1977; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



© 京都大学総合博物館

提供の写真を編集レイアウトしました

【種名・学名などの準拠文献】

目名は次の文献に準拠した。

文部省・日本動物学会 (編), 1988. 学術用語集 動物学編 (増訂版). 丸善. 1122 pp.

和名、学名、配列は、基本的に以下に準拠し、一部の種に関しては評価者の見解に従った。

環境省報道発表資料 平成19年8月3日 哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8648>

【備考】 レッドリスト改定時における評価の根拠など補足情報

和名	備考
ヤマボタル	伊豆諸島の個体群は、ハチジョウヤマボタル <i>C. hachijoensis</i> として別種とされることもあるが、ここではヤマボタルとして評価した。環境省版レッドリストでは、八丈島・佐渡島のヤマボタルガイ <i>C. lubrica</i> がLP。
スナガイ	伊豆諸島の個体群は、ハチジョウスナガイ <i>G. a. hachijoensis</i> として亜種とされることもあるが、ここではスナガイとして評価した。
ニイジマシタラガイ	マルシタラガイとして報告されたものも含め、ニイジマシタラガイとして評価した。
ヒラシタラガイ	環境省版レッドリストでは、九州以北のヒラシタラガイ <i>S. latissima</i> がLP。
タカキビ	従来、伊豆諸島の個体群は、タカキビの亜種であるシチウトウタカキビ <i>T. p. izushichitoensis</i> として報告されていたが、詳細な分類学的検討の結果、シチウトウタカキビはタカキビの異名同種とされた。そのため、ここでは、これまでシチウトウタカキビやサドタカキビとして報告されたものも含め、タカキビとして評価した。

【留意種とした理由】

和名	留意種とした理由
ナカダノミガイ	本種は主に小笠原諸島に分布する種であり、伊豆諸島の鳥島がその分布北限である。鳥島の環境変化は、大きくないと考えられるが、小さな島であり、急激で多大な変化の生じる可能性も否定できないため留意種とした。
トライオンノミガイ	
ホンダキセル	準絶滅危惧 (NT) に該当するほどではないが、多少の減少傾向が認められるため留意種とした。
ハコネギセル	
ニイジマシタラガイ	個体数は少なく、林縁の樹上に生息するため農薬散布等の影響を受けやすい。また、同属の国内外来種が伊豆諸島に移入されている可能性もあることから、今後の動態に留意が必要である。
イズマイマイ	主に林縁に生息することから、伐採や農薬散布の影響を受けやすい種である。準絶滅危惧 (NT) に該当するほどではないが、多少の減少傾向が認められるため留意種とした。

## 【関連文献】

- 東正雄, 1995. 原色日本陸産貝類図鑑 増補改訂版. 保育社. xvi + 343 pp. + 80 pls.
- 波部忠重, 1977. 伊豆諸島の陸産貝類相とその生物地理学的意義. 国立科学博物館専報, (10): 78-82, 2 pls.
- 波部忠重, 1985. 鳥島の陸産貝類. ちりぼたん, 2(1): 31-33.
- 平瀬信太郎・瀧庸, 1951. 天然色写真版 日本貝類図鑑 日本及其の附近産. 日本文教閣. xxvii + 46 pp. + 134 pls.
- 五十嵐正治・古館省典, 1952. 伊豆諸島の貝類相について. 東京都水産試験場月報, 7: 1-29.
- 板垣博, 1962. 伊豆三宅島に採集して. ちりぼたん, 2(1): 31-33.
- 環境省自然保護局野生生物課 (編), 2010. 改訂レッドリスト付属説明資料 貝類. 環境省自然保護局野生生物課. 64 pp.
- 小山千万喜, 1946. 八丈島に於けるハチジョウヤマボタルの分布概観. *Venus*, 14(5-8): 268-269.
- 小山千万樹, 1974. 三宅島の陸産貝類. ちりぼたん, 8(2): 35-38.
- 黒田徳米, 1963. 日本非海産貝類目録. 日本貝類学会. v + 71 pp.
- 黒住耐二, 1995. 貝類の絶滅と移入. In: 千葉県立中央博物館 (編). 伊豆・小笠原・マリアナ島孤の自然. 千葉県立中央博物館. pp. 104-107, pl. 24.
- 黒住耐二, 2009. ココマ遺跡の貝類学的研究. In: 東京都三宅島ココマ遺跡発掘調査報告書. 三宅島ココマ遺跡学術調査団. pp. 73-81, pl. 20.
- 前田和俊・太田秀・鹿野康裕・上島励, 1987. 横須賀市自然博物館所蔵平瀬貝類標本目録 (II) 前鰓亜綱, 有肺亜綱 (オナジマイ科を除く). 横須賀市博物館資料集, (11): 1-71.
- 湊宏, 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会. x + 294 pp.
- 湊宏, 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. *Venus, supplement*, 2: 1-212, 5 tab., 74 pls.
- 湊宏, 2006. 青ヶ島 (伊豆諸島) の陸産貝類相. 南紀生物, 48(2): 109-114.
- 湊宏, 2007. 八丈島のキセルガイ科貝類 7 種と他の陸産貝類数種の生息状況. ちりぼたん, 37(4): 184-196.
- 湊宏・川名美佐男, 1999. 八丈小島の陸産貝類. ちりぼたん, 29(4): 76-80.
- 中鉢正美・堀越増興, 1942. 伊豆式根島貝類採集記. *Venus*, 12(1/2): 106-110.
- 奥谷喬司 (編), 2000. 日本近海産貝類図鑑. 東海大学出版会. xlviii + 1173 pp.
- 大山桂, 1955. 青ヶ島の貝類. 資源研究所彙報, 38: 145-149.
- 手塚芳治・反田栄一・小山千万樹, 1975. 三宅島の陸産貝類補遺. ちりぼたん, 8: 184.
- Ueshima, R., 1995. Taxonomic position of "*Trochochlamys praealta* (Pilsbry, 1902)(Pulmonata : Helicarionidae). *Venus*, 54(2): 113-122.